

週報①

広島市医師会臨床検査センター受託分 感染性胃腸炎検出状況(腸管病原菌含)

検出菌 ウイルス	2020年												2021年																
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月 ~5日	9月 ~12日	9月 ~19日	9月 ~26日	10月 ~3日	10月 ~10日	10月 ~17日	10月 ~24日	10月 ~31日
カンピロバクター	42	46	55	54	92	177	241	189	97	132	148	125	114	65	137	114	169	115	122	85	6	12	14	13	12	7	14	14 (16)	13
病原性大腸菌	22	34	39	30	24	63	60	76	52	42	41	52	39	25	52	61	55	64	63	45	7	12	12	11	31	20	18	15 (16)	14
腸管出血性大腸菌	1	0	0	0	1	4	0	2	1	2	0	0	1	0	0	0	1	2	3	2	0	0	0	0	1	1	0	0 (1)	0
サルモネラ	4	1	2	4	10	7	14	29	16	10	10	3	6	5	3	1	5	8	10	23	0	3	3	3	3	2	6	5 (7)	6
黄色ブドウ球菌 MSSA	6	20	11	3	9	15	15	20	13	17	18	12	14	16	33	19	39	25	17	15	9	4	3	4	6	8	3	3 (4)	4
黄色ブドウ球菌 MRSA	10	11	17	8	14	14	11	17	9	10	11	9	10	10	15	25	31	13	14	19	2	2	5	1	4	5	4	1 (2)	3
腸炎ピリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	1	1	0	0	7	0	0	0	0	2	1	3	4	4	0	4	4	1	0	0	0	1	2	0	0
ロタウイルス	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	1	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ノロウイルス	10	14	6	1	0	0	0	2	0	0	0	1	4	5	6	11	13	9	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0

* ()は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

週報②

広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC) 感染症週報

令和3年第43週(10月25~10月31日)

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	5	結核	5		1			4		
三類	0	発生なし	0							
四類	8	E型肝炎	1							1
		つつが虫病	1	1						
		日本紅斑熱	5	1		2			1	1
		レジオネラ症	1	1						
五類	9	ウイルス性肝炎	1				1			
		カルバペネム耐性腸内細菌感染症	2				1		1	
		後天性免疫不全症候群	1					1		
		百日咳	1					1		
		梅毒	4					2		2
新型コロナウイルス感染症	55	新型コロナウイルス感染症	55	8	4	2	1	27	0	13

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島市、江田島市 西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町 北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

1 新型コロナウイルス感染症

第43週に27件の報告があり、新規感染者数は低い水準で推移しています。引き続き、手洗いやマスク着用、換気などの基本的な感染防止対策を徹底しましょう。

2 手足口病

定点当たり2.67人の報告があり、多い状況が続いています。手洗いの励行、排泄物の適切な処理など、感染予防を心がけましょう。

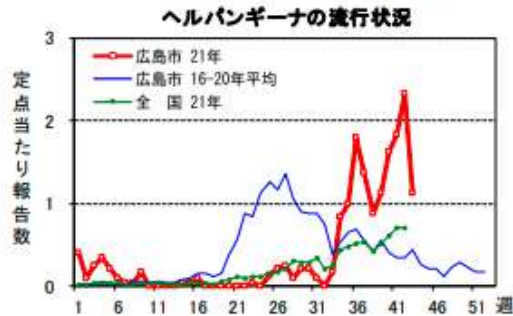
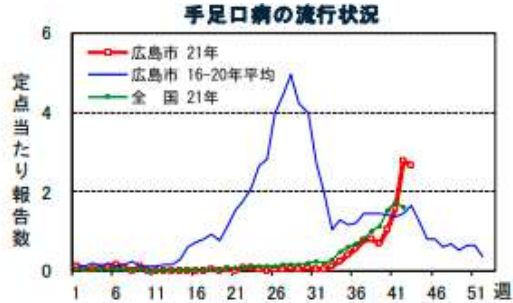
3 ヘルパンギーナ

定点当たり1.13人の報告があり、前週と比べて減少しましたが、例年同時期より多い状況が続いています。

回復後も2～4週間程度、便にウイルスが排泄されることがありますので、オムツの適切な処理を心がけるなど注意が必要です。

4 後天性免疫不全症候群(AIDS)

1件の報告があり、今年の累計は5件になりました。



■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間(注)	発生記号
フィリ	インフルエンザ	-	-	0.24		小児科	流行性耳下腺炎	-	-	0.19	
	咽頭結膜熱	4	0.17	0.24			RSウイルス感染症	1	0.04	0.73	
小児科	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	12	0.50	1.68		眼科	急性出血性結膜炎	2	0.25	0.03	
	感染性胃腸炎	57	2.38	4.93	⇒		流行性角結膜炎	8	1.00	0.40	
	水痘	1	0.04	0.34		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	64	2.67	1.66	⇒		無菌性髄膜炎	-	-	-	
	伝染性紅斑	1	0.04	0.10			マイコプラズマ肺炎	-	-	0.14	
	突発性発しん	5	0.21	0.33			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	27	1.13	0.44	↓		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	

急増減 ↑ (前週と比較しておおむね1:2以上の増減)

増減 ↗ (前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減)

微増減 ↘ (前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減)

横ばい ⇄ (ほとんど増減なし)

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■ 全数把握感染症報告状況(新型コロナウイルス感染症を除く)

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	4	73	50歳代・1人、80歳代・1人、90歳代・2人
5	後天性免疫不全症候群	1	5	20歳代・エイズ
5	梅毒	2	82	20歳代、50歳代
5	百日咳	1	2	70歳代